

= 今年度上演曲のご案内 (3) =

カンタータ第 30 番 (よろこべ 救われし民) BWV 30

カンタータ第 47 番 (おのれを高むる者は 低くせられ) BWV 47

カンタータ第 30 番 (よろこべ 救われし民)

Freue dich, erlöste Schar BWV 30

初演:1738 年 6 月 24 日(?), 洗礼者ヨハネの祝日, ライプツィヒ.

1734 年に《コーヒー・カンタータ》や, 王・貴族のための多数の表敬カンタータを提供しつづけ, その年から翌 1735 年にかけて《クリスマス・オラトリオ》で, クリスマス音楽の集大成をなすとげ, また《昇天祭オラトリオ》(カンタータ第 11 番)などで, 教会カンタータにも成熟の芽を示して, 50 歳前後の大きな高揚期を築いたバッハだが, 一方実生活においては, 公私ともに意にそぐわぬ苦渋の日々に見舞われていた.

そうした中で, 唯一, 朗報となったのが, ドレスデンからの「王室宮廷楽団所属作曲家」の称号授与(1736 年 11 月 19 日)だった. この任命を受けたのちに初めて, 大いに気を入れて作曲したのが, ザクセン選定侯の宮廷人のための《たのしきヴィーデラウよ》BWV30a(1737 年 9 月 28 日)である. 侯国宰相の寵臣フォン・ヘニックが, ライプツィヒ近郊のヴィーデラウの荘園に, 新しく領主として就任したのを祝って, バッハ自ら領主館の庭園でこの音楽劇を指揮演奏した.

躍動感にみちたカンタータの最後の輝き

その翌年(1738 年)6 月のヨハネの祝日に, この作品に手直しを施して, バッハは礼拝用のカンタータに用いたようである. おそらく原作と同じピカンダーによる歌詞の書きかえを経て, 原作の大半が, おもかげを色濃く残しながら転用された. 第 11 曲のテノール・アリアが削られ, 5 曲のレチタティーヴォ(第 2, 4, 7, 9, 11 曲)と第 6 曲コラルが新しく加えられた. トランペットとティンパニを, この際バッハはとり除いた. しかし旧バッハ全集収録の際には, また BWV30a の編成に戻って, トランペット・ティンパニを省かなかった. 新バッハ全集でようやくバッハの変更どおりに, フルート 2, オーボエ 2, オーボエ・ダモーレと弦合奏・通奏低音という編成で収録されたのである.

世俗的起源の作品だけに, 躍動感にみちた, 自由新鮮の目ざましさが感じられ, ライプツィヒ市当局や教会・学校との摩擦, 家庭的な悩みなどの屈折をふっ切

る支えともなったであろう, 宮廷作曲家称号の獲得の重みが, バッハにとってどれほど大きかったかと想像されるのである. この後バッハは, 教会カンタータの作曲から遠ざかる.

洗礼者ヨハネの祝日

洗礼者ヨハネの祝日のために, バッハが書いたカンタータは, BWV167《主の愛を讃えよ》(1723 年), BWV 7《ヨルダン河に主イエス来たりて》(1724 年)と, ライプツィヒ着任早々の 2 曲があり, いずれも手ごたえのある佳作である. しかし, それらの十数年後に, 同じ祝日のために, 貴族表敬用のカンタータから改作されたこの BWV30 は, 内容・形式ともに多角的な面から, やがて神の子イエスを迎える人々の心を悔い改めさせて, 道すじを直く平らに準備させることを使命とした, 洗礼者ヨハネを, 存分に描き切って約 40 分の大作に仕立て上げている.

洗礼者ヨハネの出現を予言して, イザヤ書はこう記している.

「呼びかける声がある.

主のために, 荒れ野に道を備え,
わたしたちの神のために, 荒れ地に広い道を通せ.
谷はすべて身を起こし, 山と丘は身を低くせよ.
険しい道は平らに, 狭い道は広い谷となれ.
主の栄光がこうして現れるのを, 肉なる者は共に見る.

主の口がこう宣言される..」

(イザヤ 40:3-5)

説教の前後を 2 つに分けて, 全体の最初と最後を, 音楽は同一, 歌詞のみを最小限度入れ替えた合唱で盛り上げ, 第 1 部をコラルで終らせるほかは, レチタティーヴォ (R) / アリア (A) のセットを 4 回くり返すという, 整然たる構造をとっている.

第 1 部

1. 合唱 (音楽は 12. と同一)
2. } R
3. } A (バス)

4. } R (アルト)
5. } A

6. コラール

R : レチタティーヴォ
A : アリア

第2部

7. } R (バス)
8. } A

9. } R (ソプラノ)
10. } A

11. R (テノール)

12. 合唱 (音楽は1.と同一)

合唱とコラール

1. 合唱 / 12. 合唱

対位法的な要素の少ない和声的進行, 合唱とオーケストラでいきなり前奏なしに開始されること, 合唱と器楽間奏との規則的な交替, 2/4拍子の軽快なリズムなどで, 純粋な喜びのわかりやすい表現に終始する.

6. コラール

オレアリウス作の「慰めよ, 慰めよ, わが愛する者たちを」Johann Olearius “Tröstet, tröstet, meine Leben” (1671) 第3節. 単純だが深味のある和声の混声4部. この旋律は, バッハの特別愛したものらしく, カンタータの中だけでも, 歌詞をそれぞれ変えてはいるものの, 7回も用いている (BWV19, 25, 30, 32, 39, 70, 194).

ドイツの現行コラール集 (EG) 524番には, デマントゥスの「大いに喜べ, おおわが魂よ」Christoph Demantius “Freu dich sehr, o meine Seele” (1620) の歌詞で入っていて, バッハの BWV70 もこの歌詞の最終 (第8) 節を用いている.

日本の『讃美歌21』130番では, オリジナル (16世紀ジュネーヴ詩編歌, ルイ・ブルジョワ Louis Bourgeois 作曲) にさかのぼって, 詩編第42篇 < 潤れたる谷間に水を求めて / あえぎてさまよう鹿のごとくに > という歌詞で収録された.

この BWV30 第6曲では, < 荒野に呼ばわる > と, イザヤ書40章の 洗礼者ヨハネの使命を预言する内容が歌われている.

レチタティーヴォとアリア

第1部でバス (第2, 3曲), アルト (第4, 5曲), 第2部でバス (第7, 8曲), ソプラノ (第9, 10曲) と, おのおのレチタティーヴォとアリアがセットになって現れ, テノールだけが (第11曲) アリアなしにレチタティーヴォのみで最終合唱に引きづく. アリアは4曲とも BWV30a の原曲から移されたもので, 前におかれる新作のレチタティーヴォは, 4曲が短いセッコ・レチタティーヴォ, 第7曲だけは, 第2部の開始にあたるので, オーボエ2本を伴うが, それらすべてが次につづくアリアまたは合唱に, 応答の行為を促す役割をもっている.

されば...歌い交わせ (2.)

急ぎて従いゆけ (4.)

されば...主の実を結ばん (主をおそれて生きよう) (7.)

主のみわざを ほめたたえまつらん (9.)

最後に, 解き放たれ わずらいも悩みも はや消え去らん (11.)

3. アリア (バス)

弦合奏で, メヌエット風の明かるい讃歌. 軽やかな3連符が, 楽器と声とにちりばめられて, はなやかである.

5. アリア (アルト)

フルートと弦合奏の, シンコペーション, 3連符に富んだ長い前・間奏. アルトがヨハネを通じて伝達される, 神の民を救う熱心に答えて, 罪に眠りこむ民の目覚めを促す.

8. アリア (バス)

第2部に入って, 再びバスの登場. オーボエ・ダモーレとコンチェルト・ヴァイオリン (独奏) および弦合奏で, 鋭い動きの, スピード感のある逆付点リズム (そのころ流行の「ロンバルディア・リズム」) で, なげうたん 主にそむくすべてのものを と, 決意表明が歌われる. エコー風な強弱の交替, 動機の上・下行をくり返して, なげうつ 動作が描出される.

10. アリア (ソプラノ)

ヴァイオリン斉奏と通奏低音, ソプラノとの, 飛びまわるような「ジグ」のリズムで, 時の流れよ 急ぎ来たり かの牧場に とくわれを導け と加速度的に終着点を目ざす.

11. レチタティーヴォ (テノール)

ここですべてから解き放たれ, つづく 12. 最終合唱で, 聖徒のいこう牧場 (天国) での満ち足れる幸を, 喜びたたえて終る.

カンタータ第47番 (おのれを高むる者は 低くせられ)

Wer sich selbst erhöht, der soll erniedriget werden BWV47

初演: 1726年10月13日 (三位一体後第17日曜), ライプツィヒ.

1725年から1727年初めにかけて, バッハは冒頭に大規模な聖句合唱曲をもつ雄大なカンタータを連作した. たとえば,

BWV85 (1725年4月15日)

「わたしは良い羊飼いである. 良い羊飼いは羊のために命を捨てる」(ヨハネ10:11)

BWV45 (1726年8月11日)

「人よ, 何が善であり, 主が何を前にお前に求めておら

れるかはお前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと、これである」(ミカ6:8)

などのように、韻文化することもなく、聖書の語句をそのまま歌詞として用いる。その日の説教の主題ともなる聖句が、そのまま歌われるのだから、聴く者にとっても礼拝全体に一体感を味わえる、有効なひとときとなったにちがいない。

BWV47 は、この種の連作の最後の大作にあたり、冒頭合唱の歌詞として壮大なフーガで歌われる聖句は、「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」(ルカ14:11, 18:14)。14章の例では、「招待されたら、上席に着いてはならない」、18章の例では、ファリサイ派の人と徴税人との祈りのうち、神にきき届けられるのは徴税人のほうだというもの。

偶然ではあるが、今日一しょに演奏する BWV30 も、主の道を備えるために、「〔低い〕谷はすべて身を起こし、〔高い〕山と丘は身を低くせよ」(イザヤ40:4)という教えに貫かれている。信仰の真髄といってもよいだろう。

1. 合唱

オーボエ2と弦合奏の長い前奏では、冒頭に下行を短く2回反復する動機、つづいて連続音程で上行と下行をさまようようくり返すパッセージに導かれて、確固たる足どりでフーガが1声部ずつ始められる。テノール、アルト、ソプラノ、バス、そしてオーボエと、5声の定旋律で、「高むる」者を表わす上行、「低くする」者を表わす下行が、それぞれに逆転しつつ交錯する。最後になって合唱まで器楽前奏の動機を歌い出し、フーガ主題と合体して、息をのむようなコーダを織り上げる。この見事さと聖句の扱いや全体の雰囲気は、BWV187「彼はすべてあなたに望みをおき」(詩編104:27)(1726年8月4日)にととても近いものを感じさせる。この時期のバッハの精神の高まりには、襟を正させるような崇高さがある。

2. アリア(ソプラノ)

このカンタータの歌詞は、おそらくテレーマンのために、アイゼナハの宮廷付秘書官ヘルビヒが1年分の教会カンタータの歌詞を集めたとされる詩集(1720年)から、ただ1つ、バッハが作曲したものである。高慢を排し謙譲を尚ぶ姿勢に貫かれている。

ヴァイオリン・ソロとソプラノとで相反する2つの態度を描き出す。初演ではオブリガート・オルガンだったのが、再演時(1742年頃)にはバッハによってヴァイオリンに変更され、新バッハ全集では後者が収録されている。

3. レチタティーヴォ(バス)

イエスのへりくだりに、おろかな弟子の高慢さを対比させて、はげしい警告を投げつける。弦合奏がそれを蔽う。

4. アリア(バス)

イエスに、かたくなな心を砕いてくれるようにとねがう。室内楽的なオーボエ、独奏ヴァイオリン、通奏低音とバス独唱とで、へりくだりに向かう人間の心をなだめ、力づけるような、慈しみにみちた曲。

5. コラール

作者不詳「なにゆえ わが魂 うなだるるや」„Warum betrübst du dich, mein Herz“ (1560頃) 第11節。カンタータ全体を貫く聖句は 実生活では、言うに易く、行うに難い。その困難が各声部の半音階的音程の多さに表わされ、ただ、主イエスの苦難にならって、みあとに従いゆくのみ、とわが心に言いきかせて、終る。

『私の好きなカンタータ』募集

月報3月号でお知らせしたとおり、今年(2003年)は、演奏新企画の第1年で、BWV1-50を対象とすることになっています。

そこで、多くの方々に関心をもっていただくために、皆様からの人気投票によって、『私の好きなカンタータ』を教えていただきたいと思えます。

- ・ BWV1-50の50曲の中から、お好きなカンタータを、10曲以内あげて、どういう点を評価されるか、ごく簡単にお書きください。
- ・ 2003年12月末日で受付を終ります。
- ・ いただいたアンケートの結果を整理して月報に発表し、将来の選曲の参考にさせていただきます。
- ・ この呼びかけを、月報8月号、12月号でもくり返して掲載し、また5月10日の定期演奏会の会場アンケート紙面にも加えます。
- ・ ご参考のために、作品番号順の曲目一覧(BWV50まで)を用意いたしました。曲名は、当合唱団の既演曲は訳詞題名を掲げ、定演回数・年次を添えました。未演のものは杉山好氏の訳をお借りします。
- ・ 当合唱団の既演/未演に関わりなく、お選びください。

ハガキ、ファックス、メール等で、合唱団事務局までお寄せください。

2003 野尻湖・予告

神山教会特別演奏会

2003年8月9日(土) 19:00 開演

プログラム

J.S.バッハ

1. カンタータ第138番《なにゆえ わが魂 うなだるるや》
 - 1) 合唱 なにゆえ わが魂 うなだるるや
 - 5) バス・アリア(斉唱) 主こそ わが望み
 - 7) コラール わが父に ませば

2. カンタータ第139番《幸いなるかな 幼な子のごとく》
 - 1) 合唱 幸いなるかな 幼な子のごとく
 - 2) テノール・アリア(斉唱) 主 わが友
 - 6) コラール 黄泉の軍勢も 死の棘すらも

3. ヴァイオリン独奏
《パルティータ》第2番 BWV1004 より
アルマンド-クーラント-サラバンド-ジューグ

4. カンタータ第26番《はかなく むなしき 地なるいのち》
 - 1) 合唱 はかなく むなしき 地なるいのち
 - 6) コラール はかなく むなしき 人の世すべて

5. カンタータ第30番《喜べ 救われし民》
 - 5) アルト・アリア(斉唱) 来たれ アダム未なる民
 - 6) コラール 荒野に呼ばわる 主の声 聞こゆ
 - 10) ソプラノ・アリア(斉唱) 時の流れよ 急ぎ来たり
 - 12) 合唱 喜べ 聖められし民

演奏者

ピアノ = 内山亜希

ヴァイオリン = 小田幸子

合唱 = 東京バッハ合唱団

指揮 = 大村恵美子 (BWV138, 139)

橋本 真行 (BWV26, 30)

入場無料

お申込み/お問合せ: 東京バッハ合唱団

後援会員、一般の方々の合宿参加も歓迎いたします。
期間: 2003年8月7日(木) ~ 10日(日)



Photo by S. Matsuo

選曲について

今回は、第93回定期演奏会(5月10日)プログラムからの2曲に加えて、新しい(未演の)カンタータ2曲を演奏します。

2002年10月22日に世を去られた団員柳沢清氏が、闘病中にバッハのカンタータ全曲のCDを通して聴かれ、その中でとくに感銘を受けられたものとして、BWV138、139の2曲を挙げられました。さっそく訳詞を付して楽譜をお送りしましたが、柳沢氏はこの2曲を携えて他界されたのです。翌年の野尻湖で演奏しよう、そのとき申し合わせましたので、それが実現されることとなります。

橋本真行氏の指揮

今年初頭から、松山バッハ合唱団指揮者の橋本真行氏が、私たちの合唱団でも指導に加わってくださることになりました。今回が当合唱団における最初の指揮で、プログラム後半のBWV26、30を担当されます。ヴァイオリン、小田幸子氏

全曲にわたって、小田幸子氏のヴァイオリンが助奏していただきます。ここ数年の恒例となりましたが、無伴奏の「ソナタとパルティータ」からの1曲もご披露くださることになっています。

独唱部分は、すべて合唱団員による斉唱で演奏されます。

世田谷中央教会 特別演奏会

東京でも、同じプログラムによる演奏会を開催いたします。

2003年8月2日(土) 18:00 開演

世田谷中央教会(世田谷区桜新町 1-14-22、

田園都市線「桜新町駅」下車)

入場無料

東京バツハ合唱団 演奏曲目一覧
BWV 1 - 50

BWV	曲名	演奏歴	50曲選
1	あしたに輝く たえなる星よ Wie schön leuchtet der Morgenstern	1 公 (62)*, 15 定(68), 69 定(91), 93 定(03)	
2	天より 見そなわし Ach Gott, vom Himmel sieh darein	75 定 (1994)	
3	しげき悩み われを襲いて Ach Gott, wie manches Herzeleid	83 定 (1998)	
4	キリスト 死に繋がれしが Christ lag in Todesbanden	25 定(72), 47 定(80), 53 定(83), 独(83)	
5	いずこに われ 逃れゆかん Wo soll ich fliehen hin	75 定 (1994)	
6	ととまれ我らと 夕闇せまり Bleib bei uns, denn es will Abend werden	4 定(64), 33 定(75), 62 定(87), 独(88)	
7	ヨルダン河に イエス来たりて Christ unser Herr zum Jordan kam	67 定 (1990)	
8	み神よ わが死はいつ Liebster Gott, wenn werd ich sterben?	12 定 (1967), 26 定 (1972), 75 定 (1994)	
9	救いは のぞめり Es ist das Heil uns kommen her	89 定 (2001)	
10	わが魂 主をあがめ Meine Seel erhebt den Herren	74 定 (1993)	
11	ほめよ 神のみ国 Lobet Gott in seinen Reichen	7 定 (1965), 42 定 (1978)	
12	泣き 嘆き 憂い 迷い Weinen, Klagen, Sorgen, Zagen	12 定 (1967), 47 定 (1980), 60 定 (1986)	
13	わがため息, わが涙は Meine Seufzer, meine Tränen		<未演>
14	神もしこの時われらと共にいませずば Wär Gott nicht mit uns diese Zeit		<未演>
15	(偽作)		
16	主 ほめうたわん Herr Gott, dich loben wir	88 定 (2000)	
17	感謝の供えものを献ぐる者は, われを讃う Wer Dank opfert, der preiset mich		<未演>
18	み空より 雨雪降り Gleichwie der Regen und Schnee vom Himmel fällt	47 定 (1980)	
19	戦い かくて起これり Es erhob sich ein Streit	83 定 (1998)	
20	おお永遠, そば雷のことば O Ewigkeit, du Donnerwort		<未演>
21	われは 憂いに沈みぬ Ich hatte viel Bekümmernis	49 定 (1981), 81 定 (1997), 独 (1997)	
22	イエス 十二弟子よびて言いたもう Jesus nahm zu sich die Zwölfe	58 定 (1985)	
23	主なる神 ダヴィデの子 Du wahrer Gott und Davids Sohn	42 定 (1978), 58 定 (1985)	
24	直く清らに 澄みたる心は Ein ungefärbt Gemüte	34 定 (1975), 65 定 (1989)	
25	汝の怒りによりて Es ist nichts Gesundes an meinem Leibe		<未演>
26	はかなく むなしき 地なるいのち Ach wie flüchtig, ach wie nichtig	93 定 (2003)	
27	たれぞ知らん, なか終わりの近づけるを Wer weiß, wie nahe mir mein Ende		<未演>
28	ほむべきかな 年終わり Gottlob! Nun geht das Jahr zu Ende	84 定 (1998)	
29	み神に 謝しまつらん Wir danken dir, Gott, wir danken dir	26 定 (1972), 60 定 (1986), 89 定 (2001)	
30	よろこべ 救われし民 Freue dich, erlöste Schar	93 定 (2003)	
31	天は笑い 地はどよめく Der Himmel lacht! Die Erde jubiliert	55 定 (1984)	
32	いと尊きイエス, わが憧れよ Liebster Jesu, mein Verlangen		<未演>
33	ただ汝にのみ, 主イエス・キリストよ Allein zu dir, Herr Jesu Christ		<未演>
34	おお永遠の火, おお愛の源よ O ewiges Feuer, o Ursprung der Liebe		<未演>
35	霊と心は驚き惑う Geist und Seele wird verwirret		<未演>
36	喜びのぼれ いと高き星に Schwingt freudig euch empor	16 定 (1968), 90 定 (2001)	
37	幸いならん 信じて洗礼受くる者 Wer da gläubet und getauft wird	77 定 (1995)	
38	深みより 主を呼ぶ Aus tiefer Not schrei ich zu dir	37 定 (1976), 67 定 (1990)	
39	あたえよパンを 飢えたる者に Brich dem Hungrigen dein Brot	2 定(63), 7 定(65), 20 定(70), 73 定・ 独(93)	
40	地に来ませり 神のみ子 Darzu ist erschienen der Sohn Gottes	52 定 (1982), 94 定 (2003)	
41	イエスをほめよ 新たな年に Jesu, nun sei gepreiset	84 定 (1998)	
42	同じ安息日の夕べ Am Abend aber desselbigen Sabbats	69 定 (1991)	
43	神は喜び叫ぶ声と共に昇り Gott fährt auf mit Jauchzen!		<未演>
44	人びと汝を除名すべし Sie werden euch in den Bann tun		<未演>
45	主は告げぬ よき行いの何なるかを Es ist dir gesagt, Mensch, was gut ist	83 定 (1998)	
46	見よや かかる痛み世にあるべき Schauet doch und sehet, ob irgendein Schmerz sei	40 定 (1977), 60 定 (1986)	
47	おのれを高むる者は 低くせられ Wer sich selbst erhöht, der soll erniedriget werden	93 定 (2003)	
48	われ悩める人, われをこの死の体より Ich elender Mensch, wer wird mich erlösen		<未演>
49	われは行きて汝をこがれ求む Ich geh und suche mit Verlangen		<未演>
50	主の救いと強きと統治と Nun ist das Heil und die Kraft	38 定 (1976)	

(以下、次回以降につづく)

【備考】 曲名: 既演曲=大村恵美子訳, ただし斜体は未演曲(杉山好訳)

演奏歴: 「15 定(68)」は「第15 回定期演奏会(1968 年開催)」の意。* ただし「1 公(62)」のみ第1 回公演。「独(83)」は「第1 回ドイツ公演(1983 年)」

50曲選: = 日本語版の楽譜とCDが「バツハ・カンタータ50 曲選」に記載・収録されている曲